



香川大学医学部附属病院薬剤部



【CBDCA+PEM+Ami(2コース目以降)療法について】 (カルボプラチン+ペメトレキセド+ライブリバント)



ID:

様

2

コース目



お薬の名前と治療のスケジュール(副作用の状況を考慮して、抗がん薬の影響が強く残っていると考えられる場合は、次の治療開始を延期することがあります。)

薬の名前	作用	めやすの時間	1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目
パンピタン末	葉酸を含む 総合ビタミン剤	1日1回 内服																						
アロカリス注 パロノセトロン注 デキサート注	アレルギー予防・ 吐き気止め	30分																						
ペメトレキセド注	抗がん剤	10分																						
カルボプラチン注	抗がん剤	1時間																						
アセトアミノフェン錠	アレルギー予防	1回2錠 内服																						
ポララミン注 ファモチジン注	アレルギー予防	30分																						
ライブリバント注	分子標的薬	2時間																						

※ ペメトレキセド注による副作用軽減のため、パンピタン末(葉酸の粉薬)の内服、メチコパール(ビタミンB12)の注射を行います。



治療による副作用

: 注意が必要な時期

		1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目
自覚 症 状	アレルギー様症状																						
		発熱や寒気、吐き気、頭痛、めまい、じんましん、脈が速い、息苦しいなどの症状が出た場合はお知らせ下さい。																					
	食欲不振・吐き気																						
		食欲低下や吐き気がすることがあります。食べやすいものを無理なく食べ、水分を摂りましょう。																					
	皮疹・皮膚障害																						
		皮膚に痒みや発赤が出た場合はお知らせ下さい。にきびのような発疹ができたり、皮膚が乾燥してひび割れができることがあるので、保湿剤を使うなどして予防しましょう。																					
検 査 値	口内炎																						
		口の中が荒れて痛みが出ることがあります。歯磨き、うがいなど丁寧にしっかりと行いましょう。																					
	下痢																						
		便の回数が多くなったり強い腹痛をとまったり、水の様な便が出るときはお知らせ下さい。																					
	脱毛(頭髪・まつ毛・眉毛など)																						
		髪質が少し変わることもありますが、治療後半年程度でまた生えてきますので、心配しすぎないでください。																					
検 査 値	白血球減少																						
		感染しやすくなりますので、手洗いうがいを心がけましょう。必要に応じて白血球数を上げる注射をすることがあります。発熱時はお知らせ下さい。																					
	赤血球減少(貧血)																						
		貧血の症状(動作時の息切れ、動悸)がでたりします。転倒に注意しましょう。																					
検 査 値	血小板減少																						
		出血しやすくなって手足に赤い点やあざがでたり、歯ぐきから血が出たりすることがあります。転倒に注意しましょう。																					
	肝機能低下																						
		体がだるい、食欲がでない、皮膚のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなる場合があります。																					

間質性肺炎に注意してください。空咳、息切れ等の症状がある場合は、速やかに連絡して下さい。

急激なむくみに注意してください。体重増加、まぶたが腫れぼったい、靴が履きにくい等の症状があれば自己判断で対処せず、医療機関へ連絡してください。



- * 注射の針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みなどがありましたら、すぐにお知らせください。
- * 上の表は治療のスケジュールや副作用が出やすい時期の目安を示したものです。必ずこの通りになるとは限りません。
- * それぞれの副作用に対して、必要に応じてお薬を使うこともあります。
- * 何か気になる症状が出たり、お聞きになりたいことなどありましたら、気軽に医師・看護師・薬剤師にお尋ねください。